

## 平成 27 年度 機器・分析技術研究会 参加報告

工学部・工学研究科 技術部 機器・分析グループ

○藤田 由紀子, 中村昇二, 梅田直明, 田村雅史

fujita@chem.mie-u.ac.jp

### 1. はじめに

平成 27 年度 9 月 10 日～11 日にかけて山形大学 米沢キャンパスにて機器・分析技術研究会が開催され、聴講参加したので報告する。

### 2. 機器・分析技術研究会について

「文部科学省所轄の大学共同利用機関法人、国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校機構に所属する技術系職員が研究発表、討論を通じて技術の研鑽、向上、相互の交流と協力により学術振興における技術支援に寄与すること」を目的として、毎年全国各地の大学等において開催されている。<sup>1)</sup>

### 3. 平成 27 年度機器・分析技術研究会

#### 3.1 開催概要

主催：山形大学

平成 27 年度機器・分析技術研究会実行委員会

日時：2015 年 9 月 10 日(木)13 時 15 分～

9 月 11 日(金)15 時 20 分

場所：山形大学 米沢キャンパス

参加人数：171 名

発表件数：口頭発表 17 件、ポスター発表 35 件

#### 3.2 日程

##### 9 月 10 日(木)

13:15- 開会式

13:30- 記念講演「有機エレクトロニクスで地域創生」城戸淳二 先生

15:00- 平成 27 年度山口大学実験・実習技術研究会の紹介

平成 28 年度名古屋大学機器・分析技術研究会の紹介

2017 年度東京大学総合技術研究会の紹介

15:30- ポスター発表

17:30- 情報交換会



山形大学 米沢キャンパス 正門

9月11日(金)

09:40- 口頭発表（午前）

13:00- 口頭発表（午後）

### 3.3 記念講演

電気を光に変える、電気の流れを制御する電子デバイスには、シリコンや無機半導体材料が使用されている。有機エレクトロニクスは、薄く軽量で屈曲するといった特徴をもつ、有機半導体、技術である。分子の構造を変えることにより、電気を流す、発光する、溶剤に溶かしインクにすることも可能であるため、印刷技術による大量生産、これまでにない用途が見込まれる。<sup>2)</sup>

講演では、地域経済が持続的に発展するために、新しい産業を創ることの重要性並びに山形大学を中心とした、有機エレクトロニクスの研究開発と地域における産業の集積、基礎研究から事業化に向けた取り組みが紹介された。

### 3.4 ポスター発表

共通利用機器の保守管理、依頼測定及び環境整備について見聞することが出来た。

三重大学からは、下記内容にて各自発表を行った。

梅田直明：XPSにおける粉末試料固定方法の検証

中村昇二：Panchromatic Cathodo Luminescence を用いた材料解析実習

田村雅史：三重大学「夏休みものづくり体験セミナー」実習報告

### 3.5 口頭発表

各機関で行われている研究支援及び安全教育における活動について聴講した。

## 4. おわりに

他大学、機関での教育及び研究活動における技術職員の関わりを知ることが出来た。より良い技術支援ができるよう、努めたいと思う。

## 5. 謝辞

最後に、本研究会に聴講参加の機会を与えていただいた三重大学技術部に感謝いたします。

### 1) 機器・分析技術研究会ホームページ

<http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/labs/tew/kikibunseki/>

### 2) 山形大学大学院理工学研究科有機デバイス工学専攻

城戸・笹部研究室

<http://oled.yz.yamagata-u.ac.jp/index.html>